

HP Data Protector 8.00 スタートアップガイド

HP 部品番号: N/A
2013 年 6 月
第 2 版



© Copyright 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。の製品およびサービスに関する保証は、製品およびサービスに付属する保証書に明示された内容、またはお客様とHPとの間で相互に締結されたライセンスまたはコンサルティングサービス契約の内容に限定されます。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、はいかなる責任も負いません。

インテル®、Itanium®、Pentium®、Intel Inside®、および Intel Inside ロゴは、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows XP®、および Windows NT® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Adobe および Acrobat は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

Oracle® は、Oracle Corporation (Redwood City, California) の米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

LiveVault® は、Autonomy Corporation plc の登録商標です。

目次

1 インストール.....	4
Windows システムへのインストール.....	4
前提条件.....	4
Cell Manager のインストール.....	5
インストールの準備.....	5
Data Protector のインストール.....	5
Data Protector の実行.....	6
クライアントのインストール.....	6
前提条件.....	6
Cell Manager GUI からのリモートでのインストール.....	6
インストール対象のシステム上でのローカルなインストール.....	6
UNIX システムへのインストール.....	7
Cell Manager のインストール.....	7
前提条件 (HP-UX).....	7
前提条件 (Linux).....	7
手順.....	7
Data Protector の実行.....	8
クライアントのインストール.....	8
前提条件.....	8
リモートインストール.....	8
ローカルインストール.....	8
次に行う手順.....	9
バックアップデバイスの構成.....	9
ファイルライブラリデバイスの構成.....	9
スタンドアロンドライブの構成.....	10
自動構成.....	10
手動構成.....	10
メディアのフォーマット.....	10
2 システムのバックアップ.....	12
基本的なバックアップルーチンのスケジュール設定.....	12
3 バックアップからの復元.....	14
4 詳細情報.....	15
Data Protector 関連ドキュメントマップ.....	15
ドキュメントマップ.....	15
略称.....	15
対応表.....	15
統合.....	16
ライセンス.....	17
問い合わせ先.....	17

1 インストール

注記:

本ガイドは、完全な Data Protector 製品に適用されます。シングルサーバー版をお持ちの場合、ここに記載の一部のプラットフォームと機能は適用されません。

このガイドは、Data Protector をすぐにお使いいただけるように作成されています。デフォルトの設定を使用すると、迅速かつ簡単にソフトウェアのインストール、バックアップの作成、および復元を行うことができます。

Windows システムへのインストール

注記: インストールに関する完全な解説については、Windows インストール用 DVD-ROM の最上位レベルの Docs ディレクトリに収められている『HP Data Protector インストールおよびライセンスガイド』を参照してください。

前提条件

- 管理サーバー (Cell Manager):
 - 4 GB RAM
内部データベースの復旧の場合、合計 RAM の 2 倍が必要です。
 - 1.5 GB の空きディスクスペース + バックアップされるファイル (IDB 用) ごとに約 100 バイト
選択したディスクボリューム上に十分なストレージスペースが無い場合には、そのディスク上のディレクトリに他のボリュームをマウントすることもできます。ただし、これはインストール前に行っておく必要があります。
- バックアップクライアント (Disk Agent):
 - 64 MB RAM (推奨 128 MB)
 - 20 MB のディスクスペース
- デバイスサーバー (Media Agent):
 - 64 MB RAM (推奨 128 MB)
 - 20 MB のディスクスペース
- ユーザーインターフェース:
 - 512 MB RAM
 - 150 MB のディスクスペース
- ガイドおよびヘルプ
 - PDF 形式のガイドおよびヘルプシステム用の 100 MB

これらの数値はコンポーネントのみに関する要件です。オペレーティングシステム、ページングファイル、またはその他のアプリケーションに割り当てるディスクスペースのサイズは含まれていません。

Cell Manager のインストール

サポートされているプラットフォームの詳細については、最新のサポート一覧 (<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>) を参照してください。

インストールの準備

1. Data Protector Cell Manager となるシステム上で以下の操作を行います。
 - a. スタンドアロンテープドライブをお使いの場合、テープドライブを Data Protector Cell Manager に接続して、電源を入れます。
 - b. TCP/IP プロトコルとホスト名解決を使用可能にします。
使用可能かどうかを確認するには、以下の手順に従ってください。
 - 1) コンピューター名を検索し、名前解決が正しく機能していることを確認します。
 - コマンドプロンプト (Windows プラットフォームの場合) またはターミナル (UNIX システムの場合) を起動します。
 - 次のコマンドを実行します。hostname
使用しているコンピューターの名前が表示されます。
 - 2) 名前解決と到達性を確認します。
 - 次のコマンドを実行します。nslookup ホスト名
 - DNS の逆引きを行うため、次のコマンドを入力します: nslookup IP アドレス
両方のコマンドから同じホスト名と IP アドレスが返された場合、ネットワークは正しく設定されています。
ネットワークに問題がある場合は、『HP Data Protector トラブルシューティングガイド』を参照してください。
 - c. 固定 IP アドレスを割り当てます。
 - d. Windows テープデバイスとチェンジャードライバーを非アクティブ化します (推奨)。これらのドライバーは、このテープデバイスに他のアプリケーションがアクセスしている場合など、例外的なケース以外は使用しないでください。
2. システムに Administrator ユーザー (Windows システムの場合) または root ユーザー (UNIX システムの場合) としてログオンします。
3. Data Protector で使用するオペレーティングシステムアカウント (dpadmin など) を個別に設定します。

Windows システムの場合、必ず以下の条件を満たすようにします。

- 設定したユーザーが Administrators および Backup Operators ユーザーグループのメンバーであること
- そのユーザーに「サービスとしてログオン」権利が付与されていること

このユーザーアカウントは、必要なサービスを提供するためにのみ必要となります。個々のシステムへのログオンには使用されません。

このアカウントは、サーバーおよびクライアントのインストール時の Data Protector サービスアカウントとして使用します。Windows ドメインでは、このユーザーアカウントをプライマリドメインコントローラーに設定するだけで十分です。

Data Protector のインストール

1. Windows インストール用 DVD-ROM を挿入して、ウィザードを起動します。
 - 64 ビットの AMD64/Intel EM64T システムの場合: \x8664\setup.exe
2. **[Cell Manager]** を選択し、デフォルト値を使用してウィザードの指示に従います。

3. [アカウント情報] ウィンドウで、インストールの準備手順の手順 3 で作成したユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。

Data Protector の実行

[スタート]→[プログラム]→[HP Data Protector]→[Data Protector Manager] の順に選択します。詳しくは、DVD-ROM の最上位ディレクトリの Docs ディレクトリに収められているマニュアルを参照してください。

クライアントのインストール

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals> を参照して “Data Protector” を検索してください。本リリースでサポートしているプラットフォームについては、バージョン 8.00 を選択してください。

前提条件

- Cell Manager がインストールされていること
- 管理者の権限および管理者パスワード
- TCP/IP プロトコルとノード名解決を使用可能にする

RAM およびディスクスペース – 最小値および推奨値

クライアントシステムコンポーネント	RAM (MB)	ディスクスペース (MB)
ユーザーインタフェース	512 ¹	150 ²
Disk Agent	各 64(推奨 128)	各 20
Media Agent		
統合コンポーネント		
英語版マニュアル (ガイド、ヘルプ)	n/a	100

¹ 同時に表示する必要がある要素の数によって異なります。

² ページファイルだけは物理メモリの約 3 倍のサイズまで増加できるようにする必要があります。

Cell Manager GUI からのリモートでのインストール

1. システムに管理者としてログオンします。
2. [スタート]→[プログラム]→[HP Data Protector]→[Data Protector Manager] の順にクリックします。
3. [Data Protector Manager] で [クライアント] コンテキストを選択します。
4. Scoping ペインで、[クライアント] を右クリックし、[クライアントの追加] を選択してウィザードを起動します。
5. ウィザードの指示に従います。

インストール対象のシステム上でのローカルなインストール

1. システムに管理者としてログオンします。
2. 次のコマンドを実行して、Cell Manager システムとクライアントシステム間のネットワーク接続を確認します。ping *CellManagerHostname*
3. 以下を実行します。
 - 32 ビットシステムの場合:\i386\setup.exe
 - 64 ビットの AMD64/Intel EM64T システムの場合:\x8664\setup.exe
 - 64 ビットの Itanium システムの場合:\ia64\setup.exe
4. [クライアント] を選択します。

5. ウィザードの指示に従います。
6. [Cell Manager システム] ダイアログボックスに、Cell Manager の名前を入力します。

UNIX システムへのインストール

注記: インストールに関する完全な解説については、UNIX インストール用 DVD-ROM の /DOCS/C ディレクトリに収められている『HP Data Protector インストールおよびライセンスガイド』を参照してください。

Cell Manager のインストール

注記: サポートされているプラットフォームについては、最新のサポート一覧 (<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>) を参照してください。

バックアップデバイスがローカルに接続された Cell Manager を、デフォルト構成でインストールする例を以下に示します。

前提条件 (HP-UX)

- 8 GB の合計 RAM
内部データベースの復旧の場合、合計 RAM の 2 倍が必要です。
- 1.5 GB の空きディスクスペース + IDB が保存される /var ディレクトリ内にバックアップファイル (IDB 用) ごとに約 100 バイト
ディスクボリューム上にストレージスペースが足りない場合はリンクディレクトリを使用することも可能ですが、その場合はインストール前にリンクを作成しておき、インストール先ディレクトリが存在することを確認しておかなければなりません。

前提条件 (Linux)

- 4 GB の合計 RAM
内部データベースの復旧の場合、合計 RAM の 2 倍が必要です。
- 1.5 GB の空きディスクスペース + IDB が保存される /var ディレクトリ内にバックアップファイル (IDB 用) ごとに約 100 バイト
ディスクボリューム上にストレージスペースが足りない場合はリンクディレクトリを使用することも可能ですが、その場合はインストール前にリンクを作成しておき、インストール先ディレクトリが存在することを確認しておかなければなりません。

手順

Data Protector Cell Manager で以下を実行します。

1. UNIX インストール用 DVD-ROM をマウントポイントにマウントします。以下に例を示します。

```
mkdir /cdrom
mount /dev/dsk/c0t0d0 /cdrom
```
2. omnisetup.sh を実行します。DVD-ROM からコマンドを実行するには、次のように入力します。

```
cd /cdrom/LOCAL_INSTALL
./omnisetup.sh -CM
```
3. 表示されるプロンプトに従います。
クライアントを Cell Manager からリモートでインストールするか、またはローカルでインストールします。

Data Protector の実行

Cell Manager サービスは、インストール中に自動的に開始されます。

Data Protector GUI を使用するには、GUI クライアントを Windows システムにインストールします。

クライアントのインストール

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals> を参照して “Data Protector” を検索してください。本リリースでサポートしているプラットフォームについては、バージョン 8.00 を選択してください。

前提条件

- 各ターゲットシステムのルート権限

RAM およびディスクスペース – 最小値および推奨値

クライアントシステムコンポーネント	RAM (MB)	ディスクスペース (MB)
Disk Agent	64(推奨 128)	10
Media Agent	64(推奨 128)	20
統合コンポーネント	64(推奨 128)	20
英語版マニュアル (ガイド、ヘルプ)	n/a	95

リモートインストール

Data Protector ユーザーインターフェースを使って、ソフトウェアコンポーネントをクライアントに配布します。プラットフォームが異なるクライアントへのインストールも可能です。

- GUI クライアントで Data Protector Manager を起動します。
- [Data Protector Manager] で [クライアント] コンテキストを選択します。
- Scoping ペインで、[クライアント] を右クリックし、[クライアントの追加] を選択してウィザードを起動します。
- ウィザードの指示に従います。ウィザードの各ページの詳細については、『**HP Data Protector ヘルプ**』を参照してください。

Media Agent のインストール後、構成ファイル (/kernel/drv/st.conf) をチェックします。詳しくは、『**HP Data Protector インストールおよびライセンスガイド**』の「Data Protector のインストール」を参照してください。

最後に、バックアップデバイスをシステムに接続します。

ローカルインストール

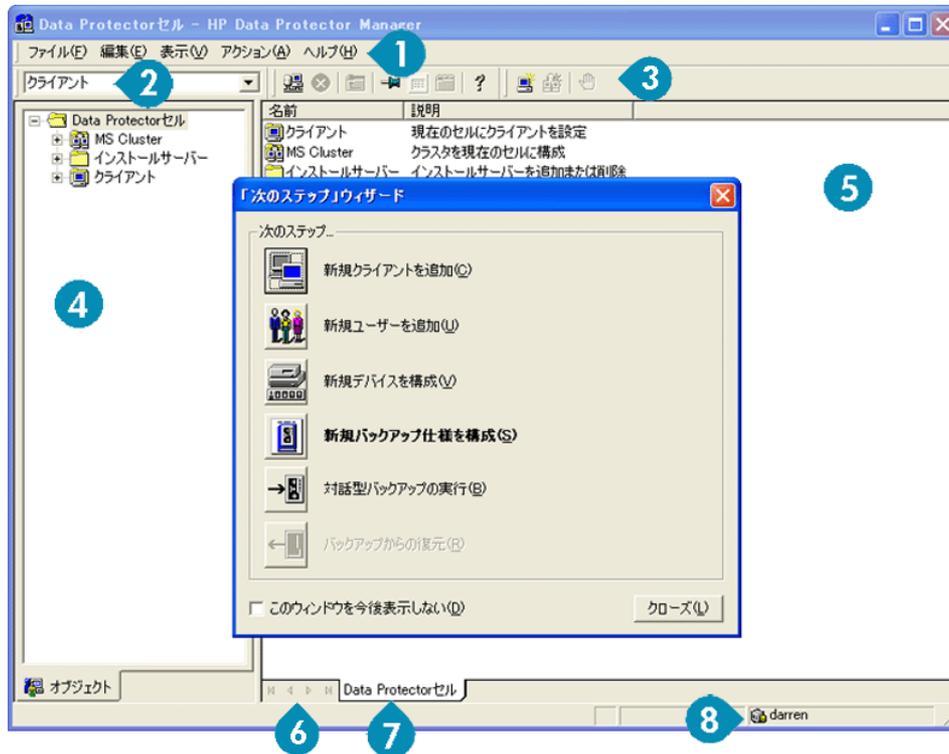
- UNIX 用インストール DVD-ROM をドライブに挿入します。
- インストール用 DVD-ROM をマウントポイントにマウントします。
- マウントポイント/LOCAL_INSTALL に移動して、以下のコマンドを実行します。
`omnisetup.sh [-source ディレクトリ] [-server サーバー名] [-install コンポーネントリスト]`
Data Protector コンポーネントコードの一覧については、『**HP Data Protector インストールおよびライセンスガイド**』を参照してください。
- インストールが完了した場合やクライアントが Data Protector セルにインポートされた場合は、omnisetup によるメッセージが表示されます。CORE および CORE-INTEG コンポーネントは自動的にインストールされます。

Cell Manager 名を指定している場合、クライアントがセルにインポートされます。指定しなかった場合は、Data Protector GUI を使ってクライアントをインポートしてください。

次に行く手順

これで **Data Protector Manager の実行準備ができました。**

Data Protector Manager を起動します。Data Protector Manager が開いて、[クライアント] コンテキストと [次のステップ] ウィザードが表示されます。



- | | | | | | | | |
|---|--------|---|-----------|---|-------|---|-------------|
| 1 | メニューバー | 2 | コンテキストリスト | 3 | ツールバー | 4 | Scoping ペイン |
| 5 | 結果エリア | 6 | ナビゲーションタブ | 7 | 結果タブ | 8 | ステータスバー |

バックアップデバイスの構成

ファイルライブラリデバイスの構成

ここでは、主にデフォルトオプションを使用して、基本的なファイルライブラリデバイスをローカルドライブまたは共有ドライブに構成する方法について説明します。その他の使用可能なオプションについては、『**HP Data Protector ヘルプ**』の索引「バックアップデバイスの構成」を参照してください。

作業を開始する前に Windows 上で圧縮オプションを無効にします。

1. ローカルディスクまたは共有ディスク上にディレクトリを作成します。

例:C:\FileLibrary

2. Data Protector Manager を起動します。
3. コンテキストリストから [デバイス/メディア] を選択します。
4. [デバイス] を右クリックして、[デバイスの追加] を選択します。デバイスを定義する画面が表示されます。

5. デバイスの詳細を入力します。

デバイス名	例:File Library Device 01
説明	適宜
クライアント	このデバイスの接続先クライアントを選択します。
デバイスの種類	[ファイルライブラリ] を選択します。

[次へ] をクリックします。

- 手順 1 で作成したファイルライブラリデバイスのディレクトリを指定し、[追加] をクリックします。
- [次へ] をクリックします。結果エリアで、メディアの種類として [ファイル] を選択します。
- [完了] をクリックします。

スタンドアロンドライブの構成

自動構成

- コンテキストリストから [デバイス/メディア] を選択します。
 - [デバイス] を右クリックします。
 - [デバイスの自動構成] を選択します。
 - リストからシステムを選択して、[完了] をクリックします。
- デバイスが自動的に構成されます。

手動構成

上記のファイルライブラリデバイスの手順 4 までを実行します。

- デバイスの詳細を入力します。

デバイス名	例:LTO-3 Tape Drive
説明	適宜
クライアント	このデバイスの接続先クライアントを選択します。
デバイスの種類	[スタンドアロン] を選択します。

[次へ] をクリックします。

- SCSI アドレスをドロップダウンリストから選択します。[追加] をクリックします。
- [次へ] をクリックします。結果エリアで、適切なメディアの種類 ([LTO] など) を選択します。
- [完了] をクリックします。

メディアのフォーマット

Data Protector は、テープが認識できるように個々のテープに独自のヘッダーを書き込みます。この項で説明するとおり、フォーマット操作は手動で行えます。また、自動で行うこともできます。Data Protector でテープを使用するには、前もってテープをフォーマットしておく必要があります。テープを Data Protector で自動的にフォーマットする場合は、この項の手順を省略してください。

△ 注意: フォーマットにより、メディア上のデータはすべて削除されます。

- [デバイス/メディア] コンテキストで、[プール] を展開します。
- 適切なメディアプールを右クリックします。

3. **[フォーマット]** を選択します。
4. 結果エリアでドライブを選択して、**[次へ]** をクリックします。
5. デフォルトの設定値をそのまま使用して、**[次へ]** をクリックします。
6. **[強制操作]** と **[メディアサイズ]** セクションで **[デフォルト]** を選択した後、**[完了]** をクリックします。これにより、メディアのフォーマットが実行されます。

2 システムのバックアップ

バックアップ仕様の作成手順と基本的なバックアップの実行手順を以下に示します。

1. コンテキストリストで [バックアップ] をクリックします。
2. Scoping ペインで [バックアップ] を展開した後、[バックアップ仕様] をクリックします。
3. 結果エリアで [ファイルシステム] を右クリックして、[バックアップの追加] を選択します。
4. [空のファイルシステムバックアップ] テンプレートを選択して [OK] をクリックします。
5. 結果エリアに表示される、バックアップ対象指定の画面でディレクトリ/ファイルをブラウザして、バックアップ対象のディレクトリ/ファイルの横にあるチェックボックスを選択し、[次へ] をクリックします。テープデバイスが接続されていない場合は、サイズの小さいディレクトリを数個選択するにとどめます。
6. デフォルトのバックアップ仕様オプションを使用するか、希望のバックアップオプションを選択して、[次へ] をクリックします。
7. 定義済みスケジュールを使用するか、希望するスケジュール用オプションを選択して、[次へ] をクリックします。設定例については、「[基本的なバックアップルーチンのスケジュール設定](#)」(12 ページ) を参照してください。
8. 結果エリアにバックアップ仕様のサマリーが表示されます。[次へ] をクリックします。
9. バックアップ仕様を保存して後で使用する場合は、[別名で保存] をクリックします。
10. バックアップを実行するには、[バックアップ開始] をクリックします。
11. [バックアップ開始] ウィンドウが表示され、[OK] をクリックすると、デフォルトのバックアップ仕様でのバックアップが開始されます。
12. [バックアップ] ウィンドウに、バックアップセッションの進行状況が表示されます。バックアップが完了した時点で、その旨を知らせるメッセージが [セッション情報] ウィンドウに表示されます。

基本的なバックアップルーチンのスケジュール設定

たとえば、毎週金曜日にフルバックアップ、金曜以外の平日には増分バックアップを実行するスケジュールを定義するとします。バックアップはすべて 21 時に実行して、4 週間保持し、さらに各月のフルバックアップについては 12 か月保持するとします。

Data Protector には、複数の定義済みスケジュールが用意されています。「フルバックアップ (毎週)」が必要とする条件に (毎週金曜日のフルバックアップと金曜以外の平日の 21 時に行う増分 1 バックアップ) 近いバックアップです。増分 1 バックアップは、前回のフルバックアップ以降の変更をすべてバックアップします。

スケジュールを定義する手順

1. 「[手動構成](#)」(10 ページ) の手順 3 でバックアップ仕様を定義するときに、[スケジュール] タブに移動します。
2. [定義済み] をクリックします。
3. [毎週 (フル)] を選択し、[OK] をクリックします。
4. [追加] をクリックします。
5. [繰り返し] で、[月単位] を選択します。
[時間オプション] で、毎月のバックアップ時刻を選択します。
[セッションオプション] で、[バックアップ保護] ドロップダウンリストから [週数] を選択し、下部のボックスに週数 (1 年 = 52 週) を入力します。



6. [OK] をクリックします。
7. [適用] をクリックします。

3 バックアップからの復元

デフォルトでは、バックアップオブジェクトはバックアップ実行時のパスへ復元されます。以下に基本的な復元の実行手順を示します。

1. コンテキストリストで [復元] をクリックします。
2. [ファイルシステム] をブラウズして、復元対象のクライアントオブジェクトを選択します。結果エリアに [復元] ビューが表示されます。
3. ディレクトリ/ファイルをブラウズして、復元対象のディレクトリ/ファイルの横にあるチェックボックスを選択します。
4. [あて先] タブを選択して、復元先を選択します。何も選択しない場合、ディレクトリ/ファイルはバックアップ実行時と同じパスに復元されます。
5. [復元の開始] ボタンをクリックします。[復元セッションの開始] ウィザードが表示されます。
6. ウィザードに表示されるデフォルト設定を使って操作を進めます ([次へ] と [完了] をクリックします)。
7. [復元セッションの開始] ウィンドウが表示されて、選択したオブジェクトのシステムへの復元状況が表示されます。

4 詳細情報

Data Protector 関連ドキュメントマップ

ドキュメントマップ

略称

以下の表は、ドキュメントマップに使用されている略称の説明です。ガイドのタイトルには、すべて先頭に “HP Data Protector” が付きます。

略称	ガイド
CLI	Command Line Interface Reference
Concepts	コンセプトガイド
DR	ディザスタリカバリガイド
GS	スタートアップガイド
GRE Exchange	Granular Recovery Extension ユーザーガイド - Microsoft Exchange Server
GRE SPS	Granular Recovery Extension ユーザーガイド - Microsoft SharePoint Server
GRE VMware	Granular Recovery Extension User Guide for VMware vSphere
Help	ヘルプ
Install	インストールおよびライセンスガイド
IG IBM	IBM アプリケーション用インテグレーションガイド - Informix、DB2、および Lotus Notes/Domino
IG MS	Microsoft アプリケーション用インテグレーションガイド - SQL Server、SharePoint Server、および Exchange Server
IG VSS	Integration Guide for Microsoft Volume Shadow Copy Service
IG O/S	インテグレーションガイド - Oracle、SAP
IG Var	Sybase および Network Data Management Protocol Server 用インテグレーションガイド
IG VirtEnv	インテグレーションガイド - 仮想環境
IG IDOL	Autonomy IDOL Server との統合
IG LV	Autonomy LiveVault との統合
PA	製品案内、ソフトウェアノートおよびリファレンス
Trouble	トラブルシューティングガイド
ZDB Admin	ZDB 管理者ガイド
ZDB Concept	ZDB コンセプトガイド
ZDB IG	ZDB インテグレーションガイド

対応表

以下の表は、各種情報がどのドキュメントに記載されているかを示したものです。セルが塗りつぶされているドキュメントを最初に参照してください。

ソフトウェアアプリケーション	ガイド
VMware vCloud Director	IG VirtEnv
VMware vSphere	IG VirtEnv、GRE VMware

以下のディスクレイシステムファミリとの統合に関する詳細については、該当するガイドを参照してください。

ディスクレイファミリ	ガイド
EMC Symmetrix	すべての ZDB
HP P4000 SAN ソリューション	ZDB Concept、ZDB Admin、IG-VSS
HP P6000 EVA ディスクレイファミリ	すべての ZDB、IG-VSS
HP P9000 XP ディスクレイファミリ	すべての ZDB、IG-VSS
HP 3PAR StoreServ Storage	ZDB Concept、ZDB Admin、IG-VSS

ライセンス

Data Protector にはインスタントオン・ライセンスが組み込まれており、インストール後 60 日間ソフトウェアを使用できます。この期間中に、HP Password Delivery Center (PDC) に恒久パスワードを請求し、インストールすることができます。

必要なライセンスをすべて購入した場合、恒久パスワードを使って、ユーザーのバックアップ方針に合った Data Protector セルを構成できます。

パスワードを入手するには、以下の HP Password Delivery Center (PDC) の電話相談窓口までご連絡願います。HP Password Delivery Center (PDC) TEL (03)3227-5264 (受付時間: 午前 9 時 ~ 午後 5 時 30 分) (『HP Data Protector インストールおよびライセンスガイド』マニュアルの『Data Protector ライセンス』の章に、申請フォーム等の必要な情報が記載されておりますので、上記窓口へのお電話にあたって、事前にご参照ください。) なお、以下のパスワード配信 Web サイトからも、同様に恒久パスワードを入手することが可能です。(英語でのご案内となっております。) <http://www.webware.hp.com>

問い合わせ先

HP Data Protector に関する詳しい情報については、<http://www.hp.com/go/dataprotector> をご覧ください。また、最寄りの当社営業所もしくは当社製品の販売会社へご連絡ください。